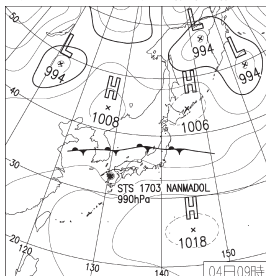


日々の天気図

— No. 186

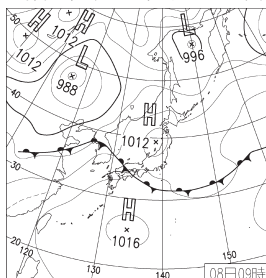
2017年7月

- 5～6日、福岡・大分等で平年7月の雨量を超える記録的大雨。土砂災害・河川氾濫による住家損壊等被害甚大(平成29年7月九州北部豪雨)。
- 22～23日、北陸・北日本の各地で大雨。秋田県雄物川で氾濫発生。
- 台風統計史上、7月発生数8個は1位タイ。第5号の寿命は3位(暫定)。(気象庁予報部予報課)



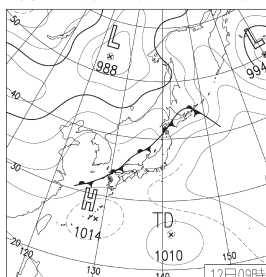
4日(火)台風第3号西日本縦断

台風は長崎市付近に上陸後、西日本を縦断し東海道沖へ。前線の影響で北陸でも大雨続く。静岡84.5mm/1h、熊本県阿蘇乙姫81.5mm/1hの猛烈な雨。高知県室戸岬で最大風速38.4m/s。



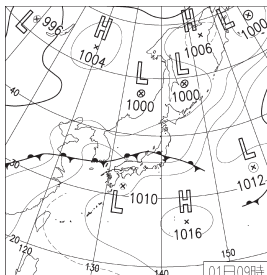
8日(土)西日本に前線停滞

梅雨前線が西日本に停滞し所々で非常に激しい雨や雷。東～北日本は高気圧に覆われ晴れて暑く、北海道でも帯広などで2日連続の猛暑日。鹿児島県吉ヶ別府で日降水量230mm。



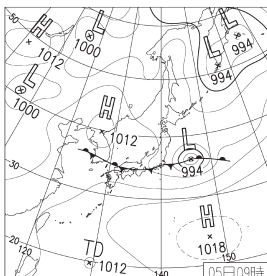
12日(水)関東で非常に激しい雨

沖縄・奄美は高気圧に覆われて晴れ。西～北日本は梅雨前線や暖かく湿った空気の影響で雨。所々で非常に激しい雨や雷雨。栃木県佐野67mm/1h、茨城県常陸大宮60.5mm/1h。



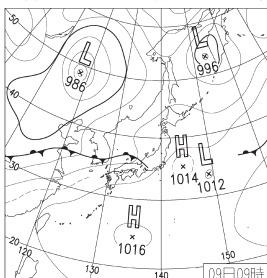
1日(土)四国や北陸で大雨

西～東日本の南岸を進む熱帯低気圧や前線の影響で湿った空気流れ込む。高知県大板87.5mm/1h、日降水量新潟県糸魚川226mm、能生217.5mmなど史上1位。北海道で震度5弱。



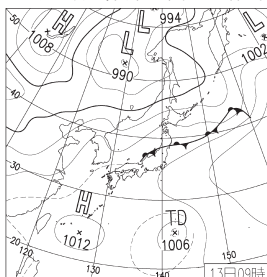
5日(水)大雨特別警報発表

台風は温帯低気圧化。梅雨前線に湿った空気流入し九州～中国で記録的な大雨。島根・福岡・大分県に大雨特別警報発表。福岡県朝倉129.5mm/1h、日降水量516mmなど各地で史上1位。



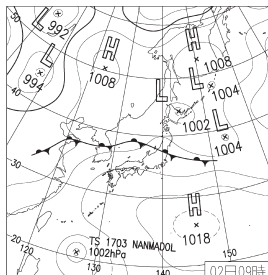
9日(日)西日本、雨続く

梅雨前線が停滞し長崎県平戸で58mm/1hなど、西日本の広い範囲で局地的に非常に激しい雨や雷。東～北日本は高気圧に覆われ概ね晴れて気温上昇し、関東と東北で猛暑日。



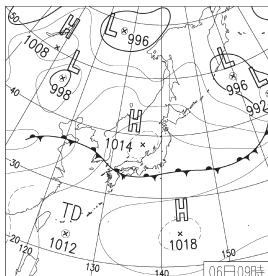
13日(木)九州南部梅雨明け発表

梅雨前線は北陸～東北に停滞。沖縄～中国・四国は高気圧に覆われ晴れ。東海～東北を中心に所々で雨。一部では非常に激しい雨。北海道は晴れて暑く約6割で真夏日。猛暑日8地点。



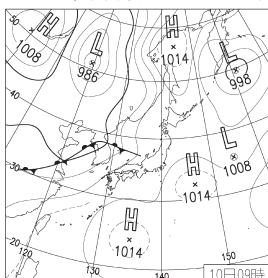
2日(日)台風第3号発生

沖縄～四国は高気圧に覆われ概ね晴れたが、沖縄は台風接近し天気下り坂。その他は梅雨前線や低気圧の影響で日本海側中心に曇りや雨。所々激しい雨や雷も。熊本県で震度5弱。



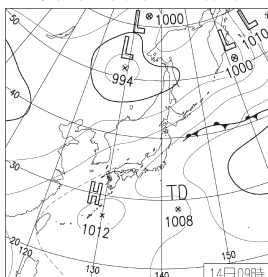
6日(木)福岡・大分特別警報解除

引き続き西日本に梅雨前線停滞し局地的に猛烈な雨。長崎県杵嶋島の芦辺90mm/1h、口之津82mm/1hで史上1位。日降水量も芦辺362.5mmで史上1位。佐賀県白石で310.5mm。



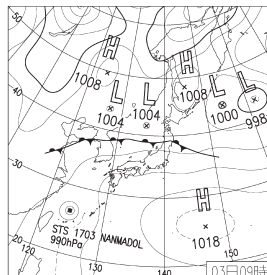
10日(月)関東・東北で猛暑日

九州～東海は湿った空気で大気の状態不安定。愛知県小原で62.5mm/1h。関東～東北は晴れて気温上昇。最高気温群馬県館林37.8℃、福島37.7℃など、関東・東北中心に猛暑日。



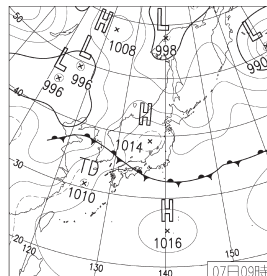
14日(金)東海で猛烈な雨

全国的に暑い日が続く。北海道では11地点で猛暑日。最高気温が7月1位の所も。湿った空気が流れ込み近畿～東北南部は所々で激しい雨。岐阜県美濃渡加89.5mm/1hは史上1位。



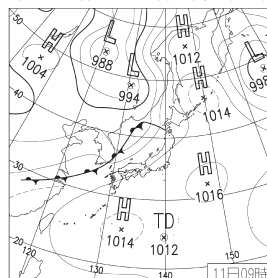
3日(月)北陸、東北で大雨

梅雨前線が北陸～東北に停滞。石川県珠洲47.5mm/1h、日降水量新潟県小国156.5mmなど7月1位。台風第3号は先島諸島を通過し東シナ海を北上。沖縄県石垣島最大瞬間風速31.7m/s。



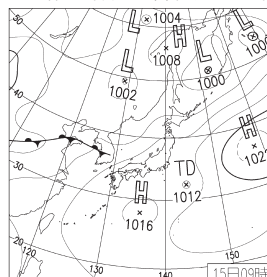
7日(金)七夕も大雨続く

活発な梅雨前線かき九州～四国は雨。九州で非常に激しい雨。日降水量福岡県八幡203.5mm。鹿児島県で竜巻。東～北日本は晴れて北海道で今年初の猛暑日6地点。福島県震度4。



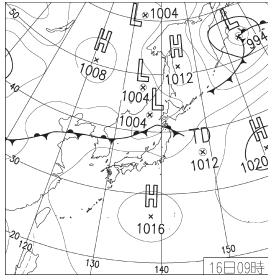
11日(火)鹿児島県で震度5強

梅雨前線は日本海まで北上し近畿～東北では日は概ね晴れ。フェーン現象が加わった山陰～北陸や上空に暖気の入った東北を中心に60地点で猛暑日。富山で最高気温37.3℃。

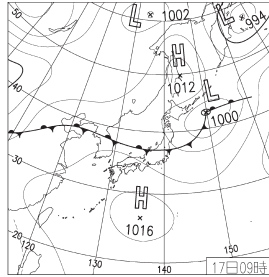


15日(土)北海道、猛暑日続く

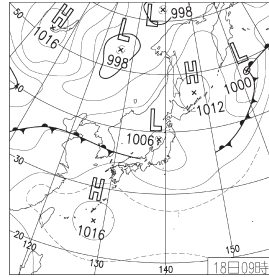
全国的に晴れて昇温し、約8割の773地点で真夏日。猛暑日59地点中北海道は25℃、最高気温が史上1位。7月1位の所多数。午後大気の状態不安定となり所々激しい雨。台風第4号発生。



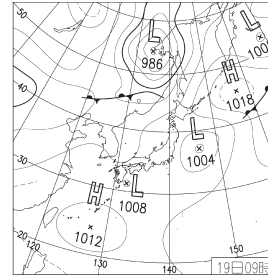
16日(日)小樽で50.5mm/1h
1943年観測開始以来1位。北日本は前線と寒気伴う気圧の谷の影響で北海道神恵内57.5mm/1h、秋田県阿仁合日降水量160.5mmなど7月1位の大雨、史上1位の所も関東でも雷や突風。



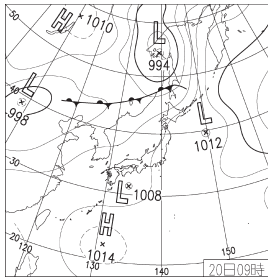
17日(月)海の日
沖縄～西日本は概ね晴れ。その他は前線や寒気の影響で局地的に激しい雨や雷。岩手県種市53.5mm/1hは7月1位。栃木県、新潟県で突風、相川で7月1位の最大瞬間風速37.6m/s。



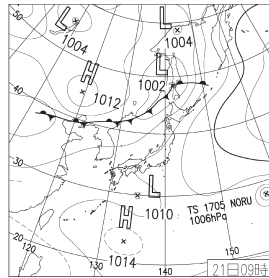
18日(火)新潟・福島で局地的大雨
上空を寒気伴った気圧の谷が通り、西～北日本の各地で大気の状態が不安定となり非常に激しい雨や雷雨。福島県只見88.5mm/1hで史上1位。日降水量251mm、神奈川県で突風被害。



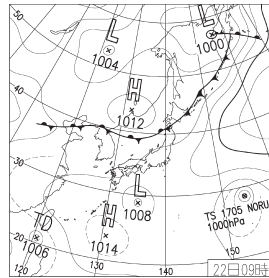
19日(水)沖縄～東北で真夏日
九州南部は暖かく湿った空気流入し激しい雨。鹿児島県喜入51.5mm/1h。その他の地方は概ね晴れ。午後は内陸でわか雨。中国、四国、近畿、東海、関東甲信で梅雨明けを発表。



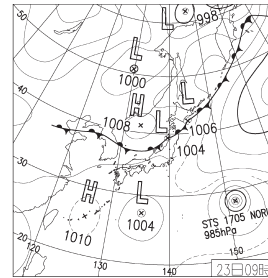
20日(木)台風第5号発生
北海道は湿った空気の影響で曇りや雨。その他は晴れた所多く気温上昇。兵庫県豊岡37°C等近畿中心に猛暑日。福岡県久留米58.5mm/1hなど所々で局地的な雨。九州北部梅雨明け発表。



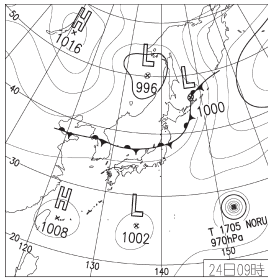
21日(金)台風第6号発生
北海道は寒冷前線南下に伴い夜には激しい雨。その他は高気圧に覆われて日は晴れた所多い。最高気温 兵庫県豊岡37.3°Cをはじめ全国97地点で猛暑日、8割超の775地点で真夏日。



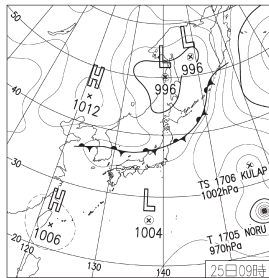
22日(土)台風第7号発生
沖縄～東日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。北日本は活発な寒冷前線が南下し激しい雷雨。秋田県中心に記録的大雨。秋田県陣場78mm/1h、横手日降水量262mmなど史上1位も多数。



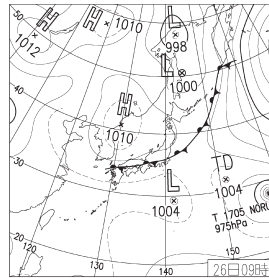
23日(日)秋田で大雨
梅雨前線が北陸～東北に停滞し東北で引き続き大雨。秋田県雄物で日降水量228.5mmなど東北各地で7月1位。東海・関東や北海道太平洋側も曇りや雨。台風第8号発生。



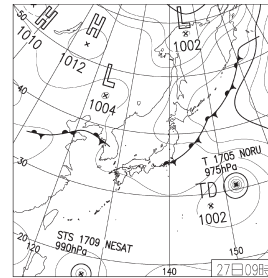
24日(月)新潟県で大雨
北陸～東北南部では梅雨前線の影響で激しい雨続く。新潟県各地で日降水量100mm超。西日本では暖かく湿った空気の影響で、各地で非常に激しい雨。岡山県旭西で60mm/1h。



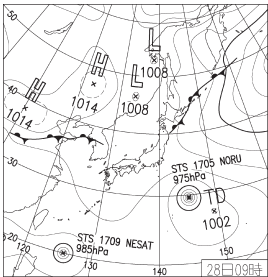
25日(火)山陰で非常に激しい雨
梅雨前線が南下し西～東日本の日本海側を中心に激しい雨が続く。島根県鹿島で67.5mm/1h。太平洋側も大気の状態が不安定となり東海～関東で局地的に非常に激しい雨や雷。



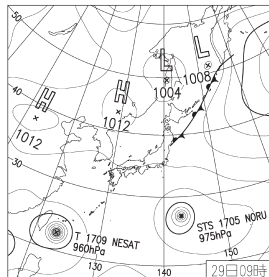
26日(水)台風第9号発生
西～東日本を前線南下、大気の状態が不安定となり、非常に激しい雨や雷雨。宮崎県えびの70.5mm/1h。午後は晴れた所が多いが関東では湿った東よりの風が入り曇りや雨。



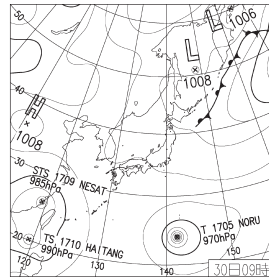
27日(木)西日本で局地的な雨
晴れて大気の状態が不安定となった西日本は山沿いを中心に局地的な雨。湿った東よりの風が流れ込んだ関東～東海は曇りや雨で、最高気温は5月中旬～6月上旬並の所も。



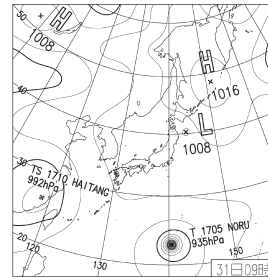
28日(金)北日本に前線停滞
西日本は晴れて気温上昇、大気の状態が不安定となり各地で激しい雨。東～北日本は曇りや雨の一部で激しい雨。福島で史上1位の71mm/1h。北日本は気温低く、北海道は夏日なし。



29日(土)台風第10号発生
湿った空気の影響で西～東日本で局地的に非常に激しい雨。台風第9号接近で沖縄県与那国島最大瞬間風速50.4m/sの猛烈な風。台風第5号接近で東京都母島で7月1位の50.5mm/1h。



30日(日)大分県日田38.3°C
沖縄～中国・四国や北海道は概ね晴れ。近畿～東北は湿った暖気が流入し曇りや雨の日。近畿や東海では局地的な雨や雷となり兵庫県西脇で41.5mm/1hの激しい雨。

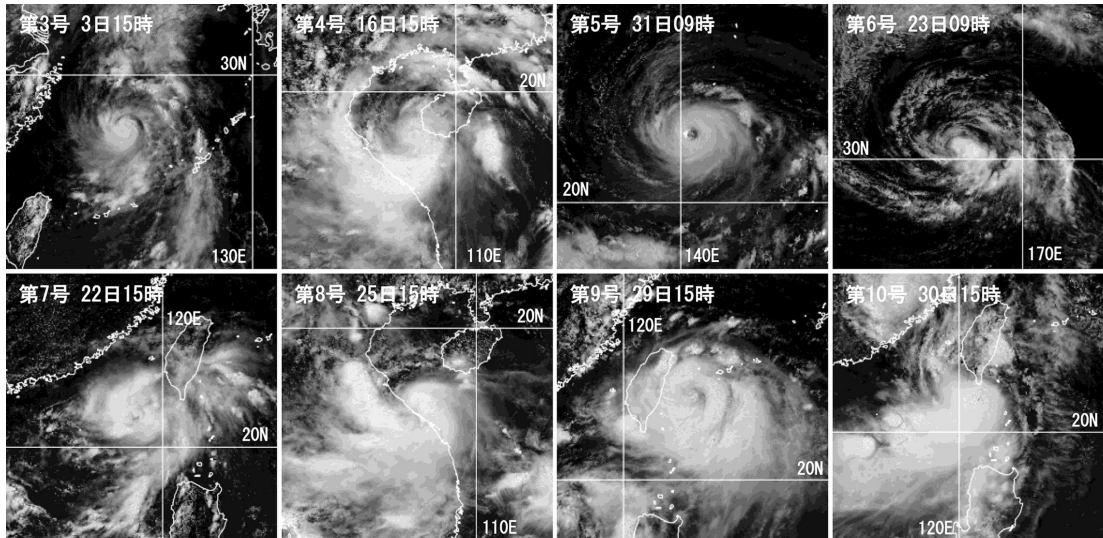


31日(月)内陸で局地的大雨
沖縄～東日本は晴れて厳しい暑さ。沖縄・鹿児島で最高気温が史上1位、7月1位の所も。午後、西日本内陸中心に局地的な雷雨。愛媛県獅子越峠で史上1位101mm/1hの猛烈な雨。

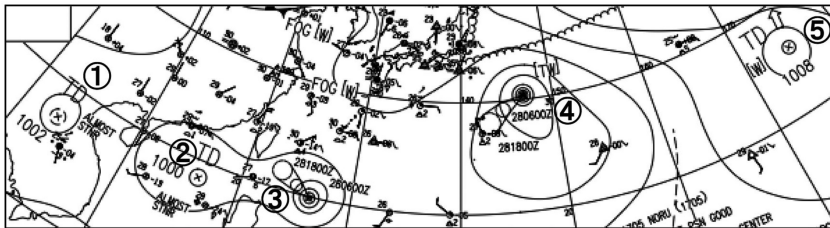


今月のひまわり画像—2017年7月

熱帯低気圧の連続発生



第1図 2017年7月に発生した台風第3号～第10号の可視画像（図中の日時は日本時間）。



第2図 2017年7月28日03時（日本時間）のアジア太平洋地上天気図（記号①～⑤については本文参照）。

第1図は、2017年7月に発生した台風第3号～第10号の、概ね最盛期の可視画像（画像の縮尺は概ね同じ）を並べたものである。2017年7月は、統計を開始した1951年以降で、7月としては1971年と並んで一ヶ月の最多発生となる8個の台風が発生した。

いずれの台風も30 kt（1 kt=0.51 m/s）以上の強風域は狭く、台風の眼がはっきりとしたのは第5号のみと、小振りな台風が多かったが、第3号と第5号は50 kt以上の暴風域を伴って日本に上陸した（第5号の上陸は8月）。

第2図は、28日03時（日本時間）のアジア太平洋地上天気図で、図中の熱帯低気圧は、西から順に①以前に第8号であった熱帯低気圧、②今後第10号となる熱帯低気圧、③第9号、④第5号、⑤30 ktの強風を伴

う熱帯低気圧である。⑤は27日～29日にウェーク島近海からミッドウェー諸島に存在していたが、⑤のように台風ではないものの、30 ktの強風を伴う熱帯低気圧は、6日～7日は先島諸島近海から東シナ海に、13日～15日は小笠原諸島近海から関東の東海上に存在していた。また、31日には、南鳥島近海で、8月に台風第11号に発達する熱帯低気圧に対して、24時間以内に台風になるという海上警報が発表されていた。

台風ではないものも含めて、気象庁による海上警報で注意・警戒が呼びかけられた熱帯低気圧は、この7月では12個存在していた。船舶関係者にとっては、気の休まらない月となったであろう。

（気象庁予報部予報課 西 峰雄）